

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

平成 31 年 2 月 19 日

白石市議会議長 志村 新一郎 殿

議員氏名 菊地 忠久

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成 31 年 2 月 4 日 (月) ～ 2 月 5 日 (火)
調査・研修先	立川市役所、衆議院第 2 議員会館、国会議事堂
調査事項 (研修事項)	◎東京女子体育大学・東京女子体育短期大学との連携事業について ◎東京オリンピック・パラリンピック事業について ◎西村明宏衆議院議員と意見交換 ◎衆議院予算委員会傍聴
対応者・講師等	立川市産業文化スポーツ部スポーツ振興課 久保義彦課長 立川市産業文化スポーツ部スポーツ振興課 石川勝則係長 立川市産業文化スポーツ部 オリンピック・パラリンピック準備室 下河辺康室長 立川市議会事務局 川瀬成樹次長
概 要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	◎東京女子体育大学・東京女子体育短期大学との連携事業について ・経緯 2013 年の東京国体開催時に、東京女子体育大学と立川市が共同で「ゆりーと体操（東京都のスポーツ親善大使マスコットゆりーとが体操をする動画を作成し都民に広げようとした）」の地域普及を行なった。 これをきっかけとして「東京女子体育大学・東京女子体育短期大学と立川市との連携・協力に関する連絡協議会」を設置した。 ・概要 文化・教育・学術・スポーツ・地域振興・まちづくり等の分野で包括的な連携・協力により地域の発展と人材の育成に寄与するため、包括的な連携・協力に関する協定を締結。これまで、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学と立川市は、市へのスポーツ行政に対する助言や地域防災訓練への参加など個々に連携・協力するにとどまっていたが、この協定締結によって、以下の分野で連携・協働し、大学と市相互の更なる発展と充実が期待できる。



- (1)スポーツ振興に関すること
- (2)オリンピック・パラリンピック等国際競技大会開催に伴う気運醸成に関すること
- (3)地域振興・まちづくりに関すること
- (4)人材育成に関すること
- (5)学術研究及び教育に関すること
- (6)生涯学習に関すること
- (7)健康に関すること
- (8)災害対策に関すること
- (9)その他必要と認める事項

・事業内容及び特色

- 年1回の連携協定に関する連絡協議会幹事会の開催
- ◎2020 東京オリンピック・パラリンピック関連事業
 - 東京2020 ライブサイト in2016-リオから東京へ ステージ 出演
 - たちかわ楽市 ステージ ストリートダンス部出演
 - 事前キャンプ誘致に向けた連携 等
- 学校教育関連事業
 - オリンピックの講義・実技指導（新体操・秋山エリカ氏、ソフトボール・佐藤理恵氏、柔道・佐藤愛子氏）
 - 立川市教育委員会教員研修
 - 体育授業エキスパート事業 等
- スポーツ振興関連事業
 - スポーツ推進審議会委員（会長）委嘱
 - バドミントンワンポイントレッスン 等
- 教室・講座の開催・講師派遣
 - 公開講座の共催（立川市教育委員会）と講座情報発信 等
- イベント等協力
 - 立川シティハーフマラソン運営協力 等

市が行う事業に大学が講師派遣や学生ボランティア等の協力・大学が実施する事業等を市の広報で伝えている。

・成果、効果

連絡協議会幹事会の議題として市と大学との連携事業の実績と予定を報告することで、連携の確認と新たな連携の開始が容易となっている。

◎東京オリンピック・パラリンピック事業について

・経緯

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた参加国の事前キャンプについて誘致活動を行なった。ベラルーシ新体操ナショナルチームが事前合宿を行なう「白石市・柴田町・仙台大学東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会」の協力を得て 2018 年 11 月に立川市で直前キャンプを行なうことが決定した。

・概要

【平成 31 (2019) 年度の予定】

7 月 22 日 (月曜日) 来日

7 月 23 日 (火曜日) ～28 日 (日曜日) 白石市・仙台大学 (柴田町) にて事前キャンプ

7 月 29 日 (月曜日) ～30 日 (火曜日) 立川市合宿

7 月 31 日 (水曜日) 立川市から移動し都内に滞在

8 月 1 日 (木曜日) 帰国

【平成 32 (2020) 年度の予定】

白石市と仙台大学(柴田町)で行う事前合宿の終了後、東京 2020 大会における新体操競技日程の直前合宿を予定。今後、日程等について詳細を調整。

・事業内容及び特色

「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた立川市の取組方針」を策定し、大会開催に向けて、5 つのテーマで、市域における気運の醸成を図るとともに、障害者スポーツを含むスポーツや健康づくり、産業、観光、文化、教育、まちづくり等の施策の推進を図る。

1 大会開催に向けた機運醸成

2 スポーツ (障害者スポーツ) の推進と環境整備

3 来街者を受け入れる環境整備

4 オリ・パラ教育と文化の推進

5 安全で活力ある共生社会の実現

◎考察

立川市と東京女子体育大学・東京女子体育短期大学の連携が非常にうまくいっていると感じた。視察前は技術指導等、スポーツに関することでの連携だと思っていたがそうではなく、まちづくりや人材育成、健康分野な

ど実に様々な連携がされている点に関心を持った。白石市も東京オリンピック・パラリンピック大会のホストタウンで仙台大学・柴田町と連携することができた。これをきっかけに今後、白石市も仙台大学と連携協定を結ぶことができるのではないだろうか。仙台大学は「体育学科」「健康福祉学科」「運動栄養学科」「スポーツ情報マスメディア学科」「現代武道学科」「子ども運動教育学科」の6学科を有している。大学で研究されている様々なことを白石市にフィードバックしていただいたり、逆に白石市が大学の研究に対して何かしらの協力ができるのではなかろうか。また、仙台大学はボブスレーをはじめオリンピックを輩出しているし、全国トップレベルの競技団体もある。そんなトップアスリートと白石市の子ども達が、技術指導や授業等を通じて交流できれば、子どもたちにとって、いい方向での影響があると確信する。

次に、東京オリンピック・パラリンピック事業についてだが、立川市の東京オリンピックに関してのホストタウンはベラルーシ新体操チームのみで、他国や他チームの受け入れは考えていないとのことである。パラリンピックに関しては、今のところ予定はないが、受け入れの門戸は開いているそうである。立川市と同様、白石市もベラルーシ新体操チームのみの受け入れのみである。パラリンピックについてもいずれかの国や競技団体・チームを受け入れられれば、パラリンピックや障害者スポーツへの理解も深まるので、今後の取り組みとして積極的に動きたい。

オリンピック大会ですべて終わりではない。白石市も今後の文化交流や子どもたちの何らかの交流を行ないたいと考えているようなので、ぜひ実現させたい。2020 東京オリ・パラ大会のコンセプトの一つである「レガシーを残す」ことが重要である。立川市は今後、市役所でベラルーシ新体操チーム関連の展示、市民との交流、学校給食にベラルーシ料理を取り入れる等、子どもたちの記憶に残る取り組みを考えている（白石市で行なっている大規模な公開演技会は予定していない）。白石市でもそういった取り組みをして、大会の機運を醸成させたい。

そして、可能であれば白石市・立川市それぞれに応援団を結成して、大会当日の競技会場で両市民が合同でベラルーシチームの応援ができればよいと思う。そうすることで、白石市・立川市の交流が深化するだろう。

今回の研修を今後の議員活動に活かし、白石市政発展にこれまで以上に尽力していきたいと新たな決意をした。